

宮城県女川町災害廃棄物試験焼却 にかかる住民説明会

共催

 大田区  品川区

 東京都環境局

 東京二十三区清掃一部事務組合

特別区における 女川町災害廃棄物受入れの経緯

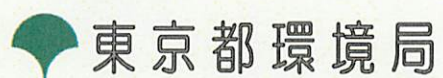
10月14日 女川町長 特別区長会に要請

11月15日 特別区長会 受入れを確認

11月24日 特別区長会、女川町、東京都
及び宮城県で「基本合意」締結

 大田区  品川区

女川町災害廃棄物の受入れについて

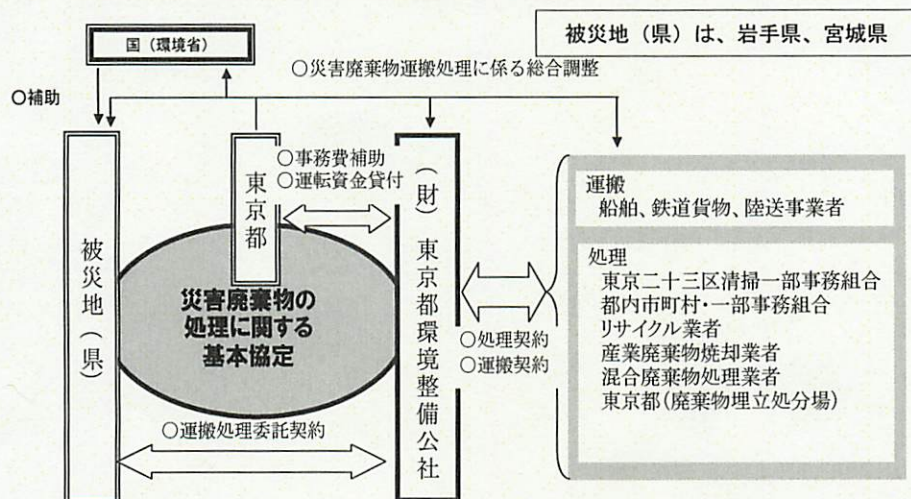


女川町



宮城県

東京都の災害廃棄物受入事業（しくみ）



女川町の災害廃棄物の焼却試験

■焼却灰等の放射能測定結果（石巻広域クリーンセンター）

災害 廃棄物	放射能濃度	($^{134}\text{Cs} + ^{137}\text{Cs}$) 133 Bq/kg
-----------	-------	---

焼却灰 (飛灰)	放射能濃度		混合燃焼時 ※	通常時
			2,300 Bq/kg	2,200 Bq/kg
排ガス	放射能濃度 Bq/m ³ N	^{134}Cs	不検出	不検出
		^{137}Cs	不検出	不検出

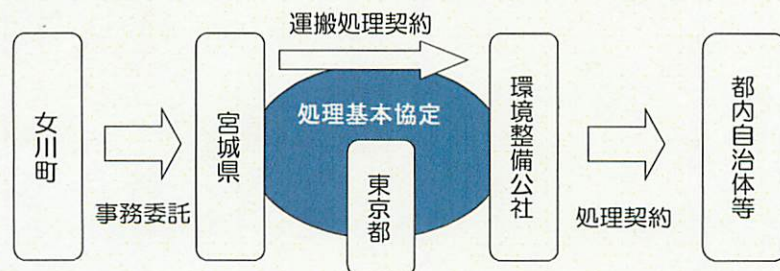
※ 災害廃棄物を20%混合

■国の「広域処理推進ガイドライン」

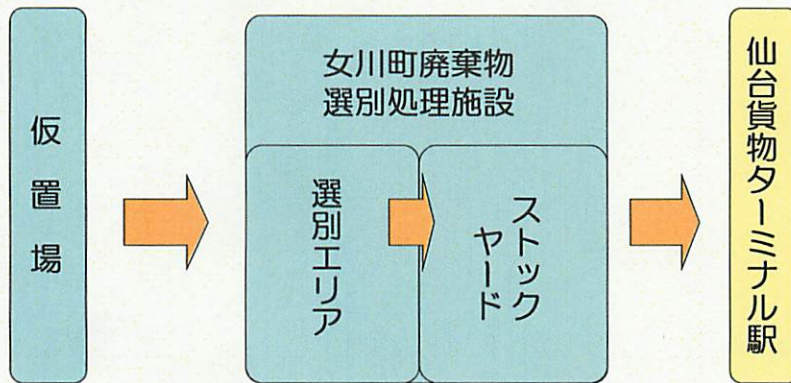
焼 却 灰	8,000 Bq/kg 以下 ($^{134}\text{Cs} + ^{137}\text{Cs}$)
排 ガ ス	$^{134}\text{Cs} / 20 + ^{137}\text{Cs} / 30 < 1$

女川町の災害廃棄物について

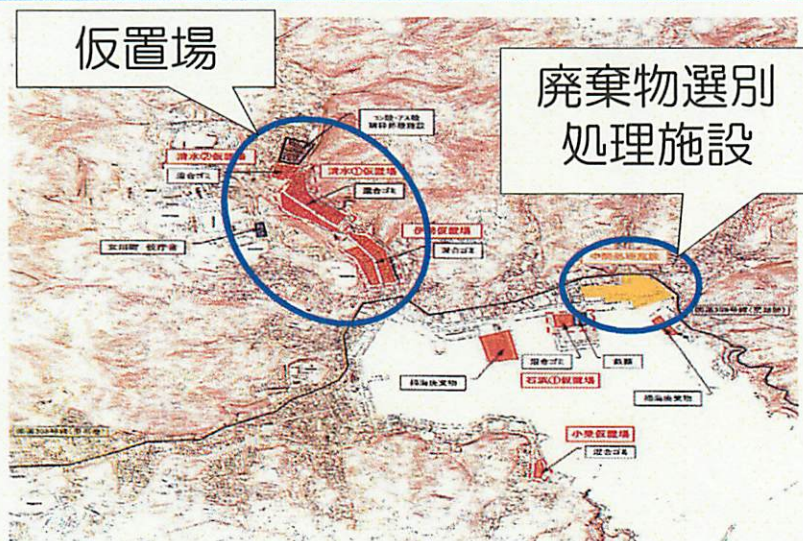
搬出場所	宮城県女川町石浜（女川町廃棄物選別処理施設）	
災害廃棄物の種類、量	可燃性廃棄物（木くず等）	約100,000トン
搬出期間（予定）	平成23年12月から平成25年3月まで	
運搬方法	鉄道貨物輸送	
処理方法	都内自治体で焼却処分	



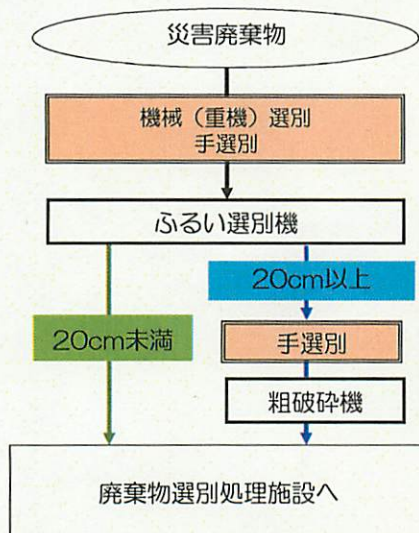
現地での災害廃棄物の流れ



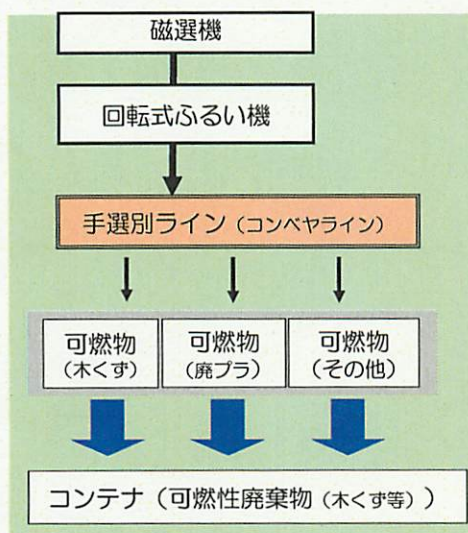
仮置場から処理施設までの位置図



仮置場での選別



廃棄物選別処理施設



《放射線量率測定》

⇒ 空間放射線量率 I

⇒ 遮蔽放射線量率 II

⇒ 空間放射線量率 III

手選別ライン



空間放射線量率測定 I ⇒

ストックヤード



遮蔽放射線量率測定 II ⇒

コンテナの積込み



空間放射線量率測定 Ⅲ ⇒



環境対策

■ 女川町での放射線量率測定の概要

	測定場所	測定内容	測定頻度
I	選別エリア	空間放射線量率	1ラインにつき3地点、1時間ごと
II	ストックヤード	遮蔽放射線量率	コンテナ単位
III	ストックヤード (搬出時)	コンテナ積込後の 空間放射線量率	コンテナごと

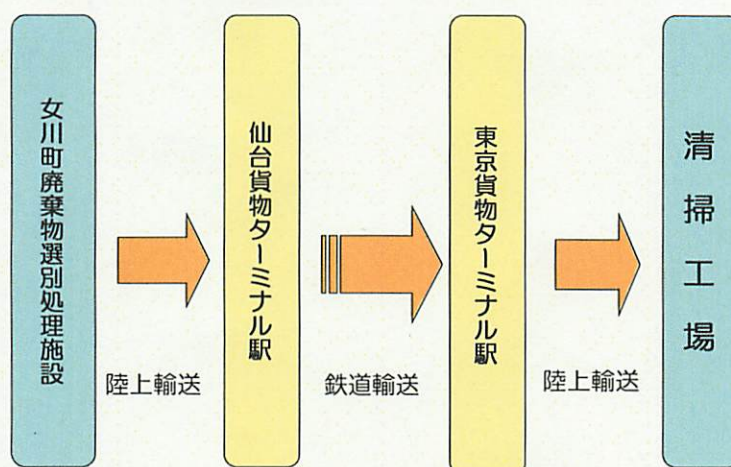
■ 有害物（アスベスト等）、危険物の除去

仮置場と廃棄物選別処理施設の両方において人の手により実施

■ 監視

東京都環境整備公社職員（現地常駐）

運搬の経路



今回使用するコンテナ



女川町から都内清掃工場まで

放射能測定等について、
継続して実施し、
公表していきます。

女川町災害廃棄物の 清掃工場における受入れ



東京二十三区清掃一部事務組合

東京二十三区清掃一部事務組合とは

23区の総意で設置した特別地方公共団体

23区における清掃事業

	収集・運搬	中間処理	最終処分
平成11年度 まで	東京都		
平成12年度 から	各区	23区共同	東京都 に委託



東京二十三区清掃一部事務組合
(清掃一組)

清掃一組での災害廃棄物受入れの手順

ステップ1 現地の焼却試験結果の確認

- ①東京都による評価
- ②清掃一組による評価

ステップ2 清掃一組での試験焼却の
実施

ステップ3 災害廃棄物の受入れ

ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

【現地焼却試験の評価のまとめ】

- ① 現地の通常ごみ焼却時との比較
- ② 清掃一組の測定結果との比較



いずれも災害廃棄物を焼却した
影響は見られませんでした。

ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

- (1) 試験場所 石巻地区広域行政事務組合
石巻広域クリーンセンター(2号炉)



施設規模	230トン/日 (115トン×2炉)
炉形式	流動床炉
排ガス 処理方式	乾式処理

- (2) 試験期間 平成23年9月7日～8日
(実焼却：8日8:00～21:00)
- (3) 焼却方法 災害廃棄物を20%混合

ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

焼却灰等の放射能濃度測定結果

測定項目	単位	女川町 焼却試験	清掃一組 全工場
焼却灰（飛灰）	Bq/kg	2,300	559～ 13,630
排ガス	Bq/m ³ /N	不検出	不検出

ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

排ガスの主な測定項目

・大気汚染防止法

- ①窒素酸化物
- ②ばいじん
- ③硫黄酸化物
- ④塩化水素

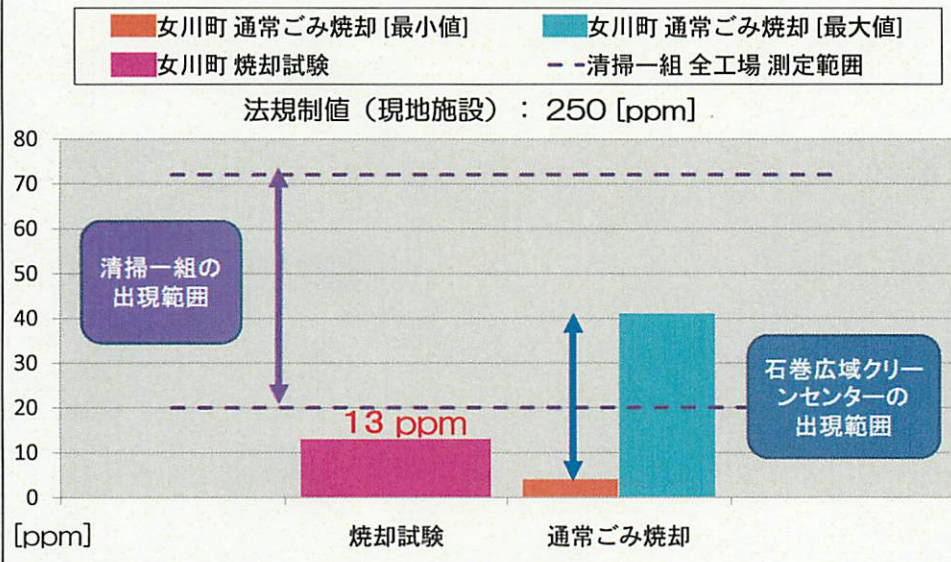
・ダイオキシン類対策特別措置法

- ①ダイオキシン類

ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

測定項目：窒素酸化物

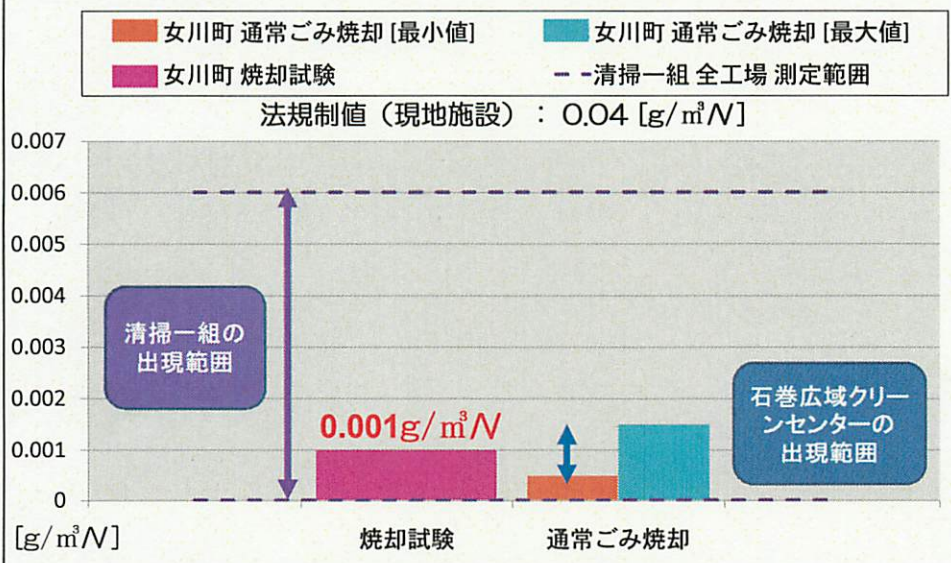
試料採取箇所：煙突



ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

測定項目：ばいじん

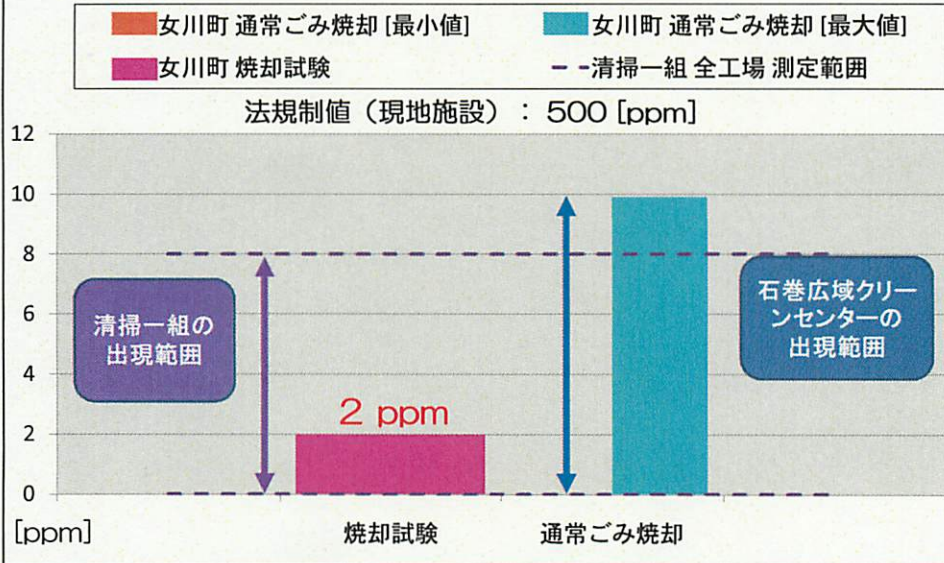
試料採取箇所：煙突



ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

測定項目：硫黄酸化物

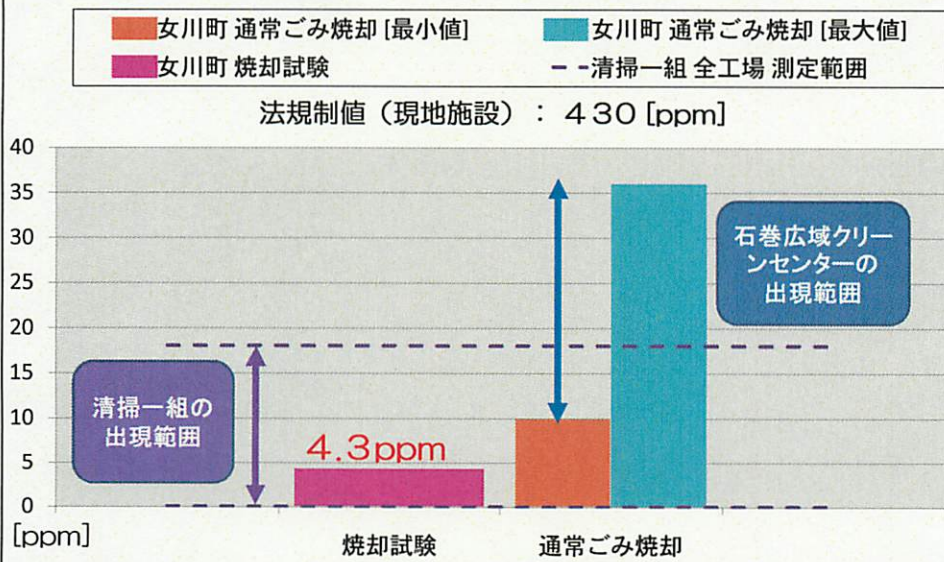
試料採取箇所：煙突



ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

測定項目：塩化水素

試料採取箇所：煙突



ステップ1 現地の災害廃棄物焼却試験の評価

測定項目：ダイオキシン類

試料採取箇所：煙突

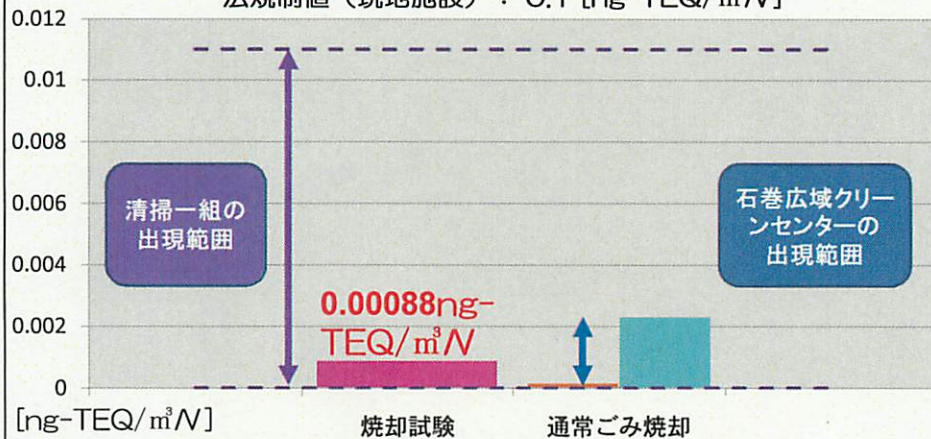
■ 女川町 通常ごみ焼却 [最小値]

■ 女川町 通常ごみ焼却 [最大値]

■ 女川町 焼却試験

--- 清掃一組 全工場 測定範囲

法規制値（現地施設）：0.1 [ng-TEQ/m³/N]



ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

【目的】

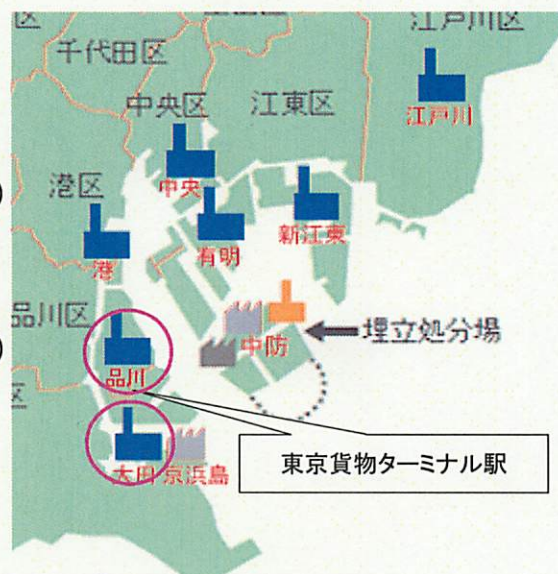
女川町の災害廃棄物を、清掃一組の清掃工場
で焼却するのに先立ち、当該廃棄物を法令及び
清掃一組の管理基準に適合した処理ができるこ
とを試験焼却により確認します。

ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(1) 実施工場

■ 大田清掃工場
(3炉中1炉)

■ 品川清掃工場
(2炉中1炉)



ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(2) 実施工場の選定理由

- 焼却炉が複数あること
- ごみ貯留槽「ごみバンカ」の大きさ
- コンテナ輸送能力（輸送距離）

ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(3) 実施期間

■ 大田清掃工場

搬入 : 平成23年12月10日・13日

試験焼却 : 平成23年12月13日～14日

■ 品川清掃工場

搬入 : 平成23年12月17日・20日

試験焼却 : 平成23年12月20日～21日

ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(4) 実施方法

■ 試験対象ごみ

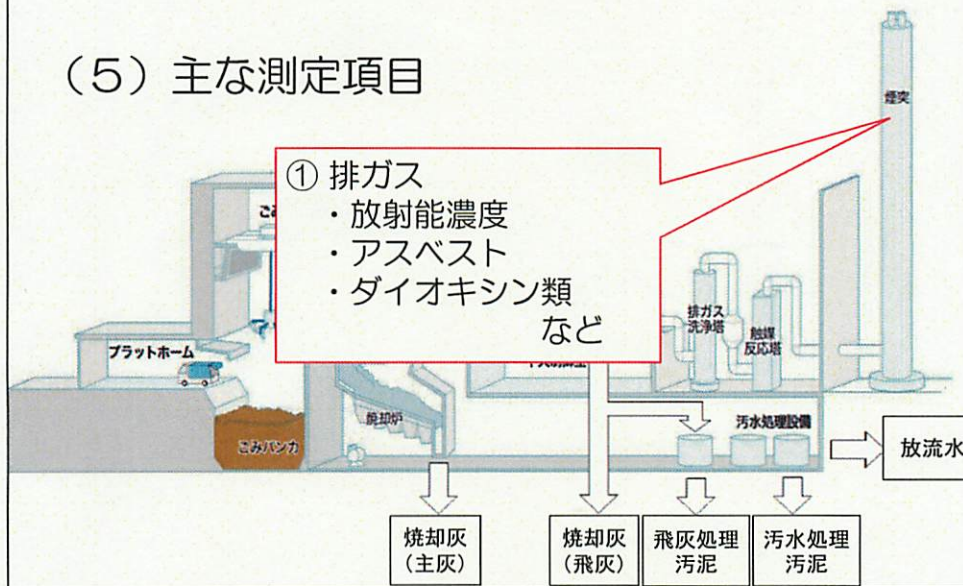
現地で安全性が確認された女川町の
災害廃棄物

■ 試験焼却ごみの混合方法

災害廃棄物の混合比率 **20%**

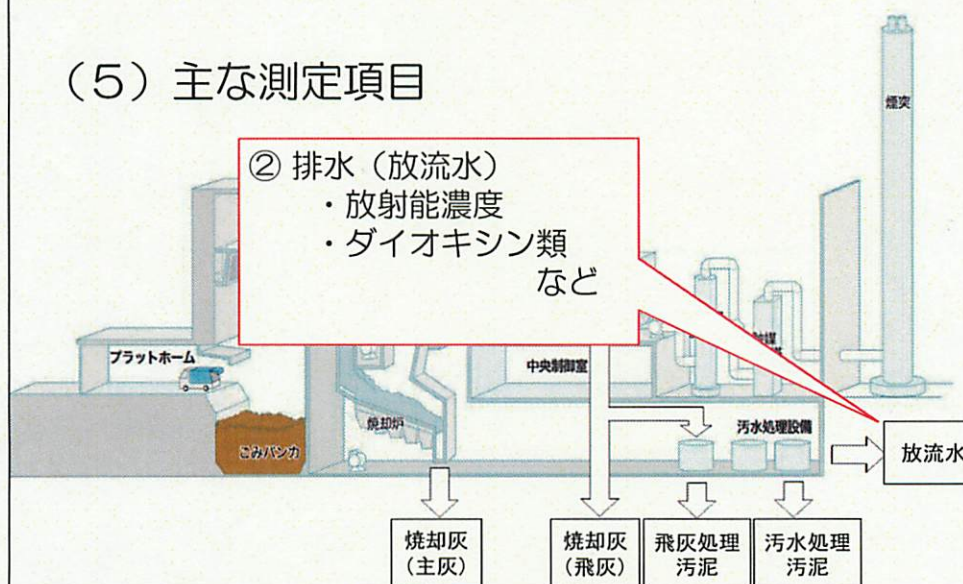
ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(5) 主な測定項目



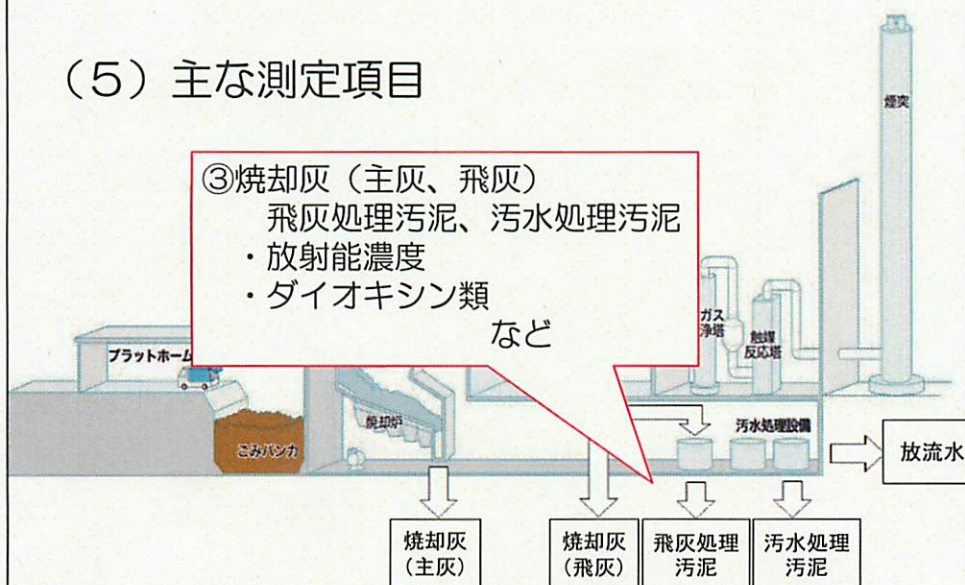
ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(5) 主な測定項目



ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(5) 主な測定項目

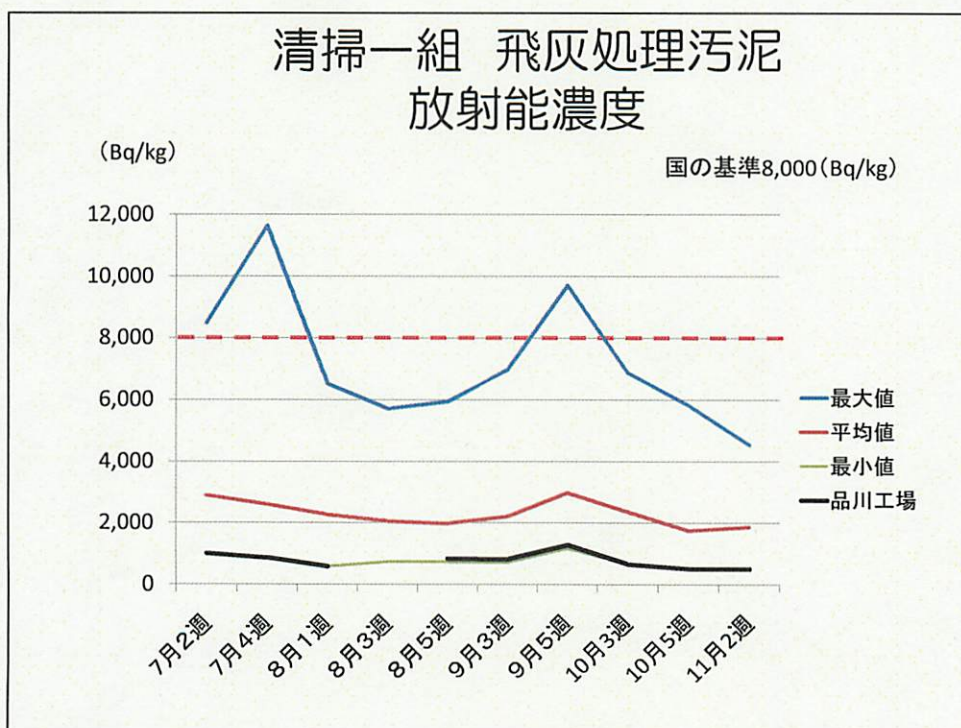
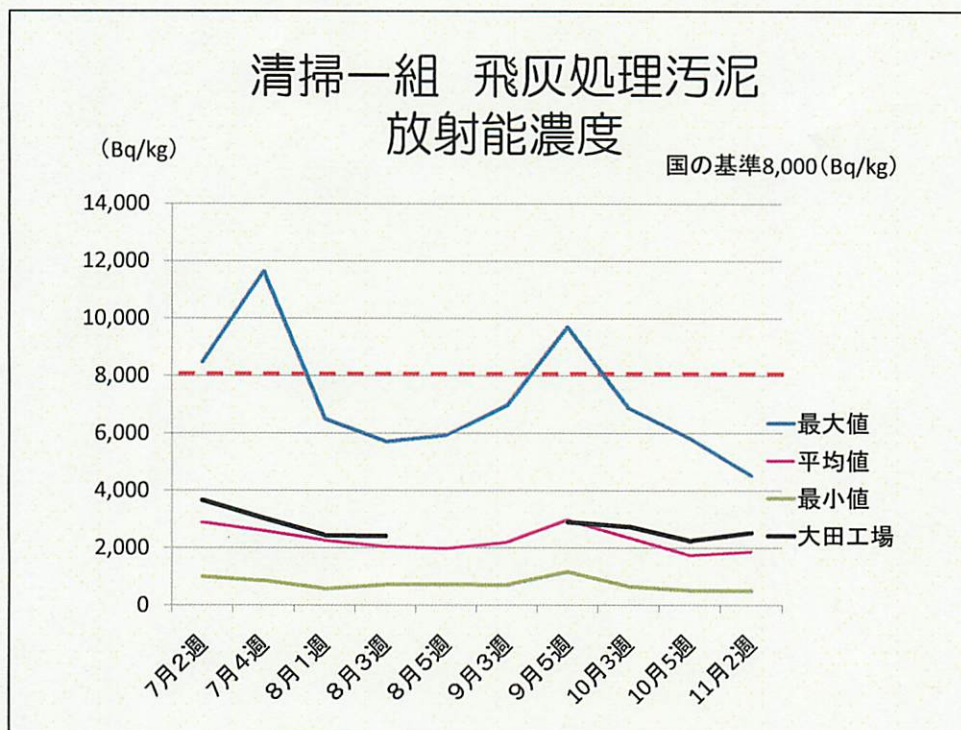


ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

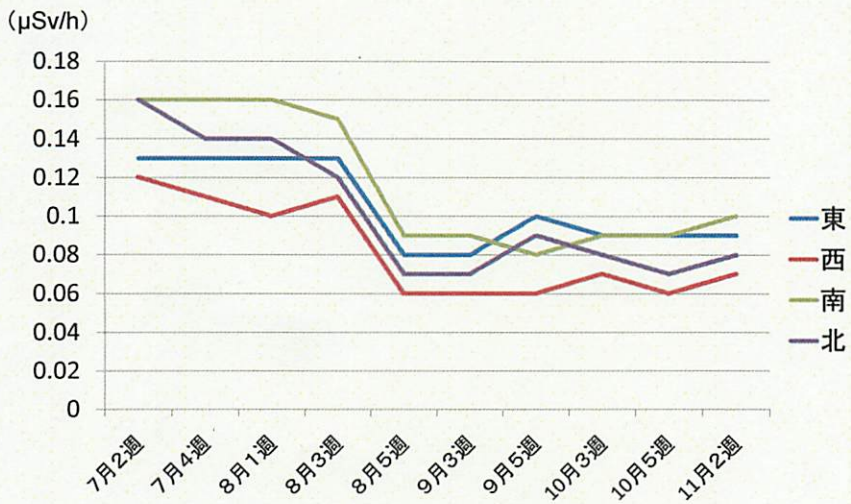
(5) 主な測定項目

④空間放射線量率

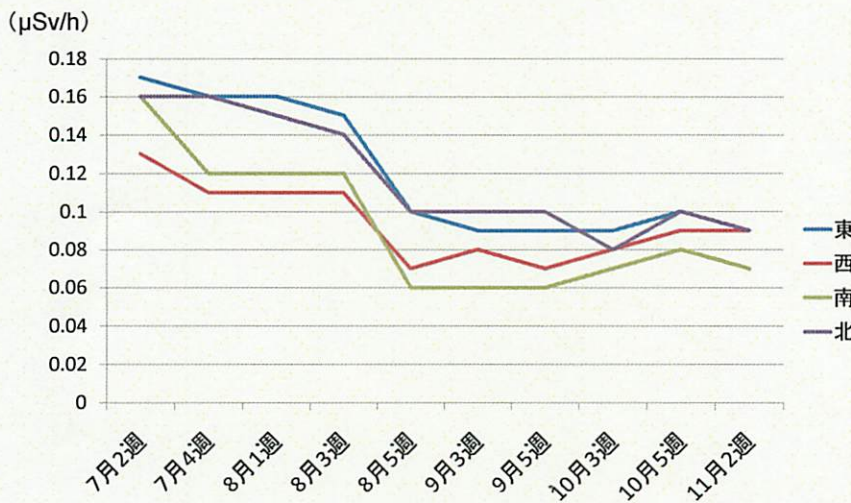
清掃工場の敷地境界（東西南北）
の4か所



大田清掃工場 敷地境界空間放射線量率



品川清掃工場 敷地境界空間放射線量率



ステップ2 清掃一組での試験焼却の実施

(6) 試験結果の評価・公表

試験焼却終了後、第三者機関による分析期間を含め、1月下旬を目途に試験の結果をまとめ、項目ごとに評価を行い、公表します。

ステップ3 災害廃棄物の受入れ

- (1) 受入期間
平成24年2月以降、平成25年3月まで
- (2) 受入工場
稼働中の全清掃工場
- (3) 受入量
1日平均150 t
- (4) 通常の可燃ごみとの混合比率
災害廃棄物は通常の可燃ごみに対して
10%以下

ステップ3 災害廃棄物の受入れ

放射能濃度等について、
継続して測定を実施し、
公表していきます。

〔関連情報URL〕

大田区

http://www.city.ota.tokyo.jp/shinsai/tokyoto_ukeire/onagawaukeire.html

品川区

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/hp/page000015500/hpg000015464.htm>

東京都環境局

<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/>

東京二十三区清掃一部事務組合

<http://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/topics/onagawa.html>